

会議議事録

会議名	2020年度 学校関係者評価委員会
※2021年6月、新型コロナウイルス感染防止のため、書面において、委員の方からご意見をいただきました。	
委員	学校関係者評価委員(50音順) 岡本 和也 : 卒業生代表 柿木田 健 : 社会福祉法人広島常光福祉会 理事長 梶原 穰治 : 学校法人虹山学園 理事長 土谷 治子 : 医療法人あかね会 理事長 脇田 康則 : 高等学校代表
議題	2020年度自己評価について

No	議題	内容(決定事項)
1	「教育目標と本年度の重点目標の評価」	「2020年度 自己評価報告書 教育目標と本年度の重点目標の評価」参照 <委員からの意見> ・コロナ禍の中で、退学率が目標値には達成していないが、昨年度より減少しているのは教職員の努力の結果と考える。(土谷) ・ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを作成される等、本校の努力を感じる。コロナ禍の中、弛まない教育活動の苦勞を感じる。(梶原)
2	「基準1 教育理念・目的・育人人材像」	「2020年度 自己評価報告書 基準1 大項目総括」参照 <委員からの意見> ・今回の高等学校学習指導要領改訂のポイントの1つに「主体的・対話的で深い学びの理解に向けた授業改善」がある。各高校において確実に授業が変化してきており、今後貴校にもこうした授業を受けた生徒が入学してくることになる。講義型一斉授業を否定するものではないが、上級学校にあっては、高校卒業までの12年間で身に付けた力を引き継ぎ、能動的に学習する能力の一層の伸長を期待する。(脇田) →一部の授業においては、グループワークやボランティア活動による地域との対話などを通して実践できている部分もある。他の授業においても「主体的・対話的で深い学び」の視点をもって、授業改善に取り組み、新たに入学する学生が戸惑うことなく本校の教育を受けることができるよう準備を進めることが必要であると感じた。
3	「基準2 学校運営」	「2020年度 自己評価報告書 基準2 大項目総括」参照 <委員からの意見> ・決定の方法はどうなっているのか。県立学校にあっては、職員会議での多数決はなく、校長の権限は確立している。職員会議、運営会議、委員会等で決定する場合、決定の権限は誰にあるのか。(脇田)

No	議 題	内 容(決定事項)
		<p>→運営会議・職員会議とも学校長が招集し、校長が決定権を有している。各種委員会で提案された事項についても、学校長の承認により決定される。</p>
4	「基準3 教育活動」	<p>「2020年度 自己評価報告書 基準3 大項目総括」参照</p> <p><委員からの意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・100%の資格取得は専門学校にあっては当然のことであるが、重要なことは「如何にハイレベルで合格させるか」ではないかと思う。卒業後の就職や高校生の募集に直結していると考える。(脇田) →現状、合格率100%を達成できていない資格があり、試験対策授業や授業外での個別指導で確実に合格率100%を達成できる仕組みを確立する必要がある。また、「ハイレベル」での合格は本校の価値を高めるものであることから、そのレベルに達する学生を少しでも増やす工夫を継続する。 <p>・コロナ禍の中、教育活動もままならない中、教職員の努力が感じられる。(梶原)</p>
5	「基準4 学修成果」	<p>「2020年度 自己評価報告書 基準4 大項目総括」参照</p> <p><委員からの意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療秘書福祉学科の資格取得率が75%と低い理由は何か。(土谷) →診療報酬請求事務能力認定試験は合格率が低く(全国平均合格率30.2%)、2年次までの学習では取得が困難であるため、本来専攻科で受験させていたが、医療秘書福祉学科最後のクラスで合格の可能性が高い学生が多かったため、カリキュラムを前倒して挑戦させた。その結果、当該年度の全国合格率は42.8%であったが、本校では75%の合格者を出すことができた。医療事務職員として業務にあたる上では一番有効な資格なので、多くの学生が取得できたことはよかった。 ・同窓会との連携はぜひ実施していただきたい。24年の長い歴史を経て、多くの卒業生が社会で活躍していることと思う。その活躍を具体的にまとめていくことは、専門性と実践力を身に付けるべく貴校で学ぶ学生のモチベーション向上につながると考える。また、これから進路を考える高校生にとっても大きな判断材料になると思う。(脇田) →卒業生と各教職員の個別の係わりだけでなく、組織として学校と同窓会との関係を深め、卒業生・在校生双方にとってメリットがでるような関係を構築したい。またそのことが高校生へのアピールとなるような仕組みをつくりたい。 <p>・大変な学業環境の中、学生の努力が伺える。(梶原)</p>
6	「基準5 学生支援」	<p>「2020年度 自己評価報告書 基準5 大項目総括」参照</p> <p><委員からの意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にあって、経済的な問題は極めて大きな問題になったのではと思う。困窮者に対する一層の支援をお願いしたい。学費が払えないから退学するといった学生を出さないために。(脇田) →日本学生支援機構や高等教育の修学支援制度の積極的な学生への呼

No	議 題	内 容(決定事項)
		<p>びかけに加え、本校独自の奨学金等の活用によって、退学者を出さない取り組みを継続して行う。</p> <p>・コロナ禍において、学生の心中にも変化が多かったように感じる。(梶原)</p>
7	「基準6 教育環境」	<p>「2020年度 自己評価報告書 基準6 大項目総括」参照</p> <p>＜委員からの意見＞</p> <p>・教育環境の整備は、安心・安全にして快適な学園生活を送るためには欠かせない重要なことである。このことは学生の学習意欲、知識・技能の向上に直結しており、資格取得率の向上、退学者数の減少につながるものと思う。また、これからの出願者数の増加にもつながっていくと考える。より一層の充実・拡充を期待する。(脇田)</p>
8	「基準7 学生募集と受入れ」	<p>「2020年度 自己評価報告書 基準7 大項目総括」参照</p> <p>＜委員からの意見＞</p> <p>・高校生が進路を考えるとときの選択肢に臨床工学技士や診療情報管理士といった職業が浸透していないように思う。高校生に対する広報は当然のことであるが、生徒を指導する教職員への周知も必要である。(脇田)</p> <p>→高校訪問を通して高校の教職員の方に説明を行っているが、浸透するまでには至っていない。専門学校の認知度向上と大学との差別化も含めて説明を継続していく。</p> <p>・今まで出来ていたことも、ままならない状況下で、新しい取り組みを推進されているように思える。(梶原)</p>
9	「基準8 財務」	<p>「2020年度 自己評価報告書 基準8 大項目総括」参照</p> <p>＜委員からの意見＞</p> <p>・外部環境の悪化は多くの大学・専門学校が直面している問題である。貴校はこれまで果たしてきた社会への貢献は大きく、存在感もある。学科の統廃合については、貴校の特色が消え、埋没してしまうようなことがないようお願いしたい。(脇田)</p> <p>・入学者増、経費削減も大切なことだが、退学者や在學生にも焦点をあてるべきでは。コロナの影響はどの分野でも起きている。質の維持・向上が結果として、入学者増→収入増につながると考える。コロナ禍で、今までのやり方では、どの分野でも通用しなくなっている。新たな取り組みが必要だと思う。(岡本)</p> <p>→経費削減が教育の質に影響を及ぼしてはならない。学生一人一人に対してきめ細かな指導をすることをベースに、さらなる教育の質・学生の満足度の向上を図っていく。また、コロナ禍で様々な制約が生じる状況においてもしっかりと教育が行えるよう、ハード・ソフト両面で常に改善する。</p> <p>・厳しい社会情勢の中、一層の努力をお願いしたい。(梶原)</p>
10	「基準9 法令等の遵守」	<p>「2020年度 自己評価報告書 基準9 大項目総括」参照</p> <p>＜委員からの意見＞</p> <p>・自己評価は全教職員に実施すべきと考える。さらには、自己評価と人事評価をリンクさせ、給与に反映する形がとれればと考える。(脇田)</p>

No	議 題	内 容(決定事項)
		<p>→現在、自己評価と人事評価のリンクはない。リンクさせるためには、公平で誰もが納得感のある仕組みを構築する必要があり、早急には実施することは難しい。</p> <p>・法令順守への取り組む姿勢が感じられる。(梶原)</p>
11	「基準10 社会貢献・地域貢献」	<p>「2020年度 自己評価報告書 基準10 大項目総括」参照</p> <p><委員からの意見></p> <p>・一層の充実を期待する。(脇田)</p> <p>・新型コロナの影響もあり、なかなか地域とのかかわりも計画通りには難しかったと思う。(梶原)</p>
	次 回 開 催	2022年 6月予定